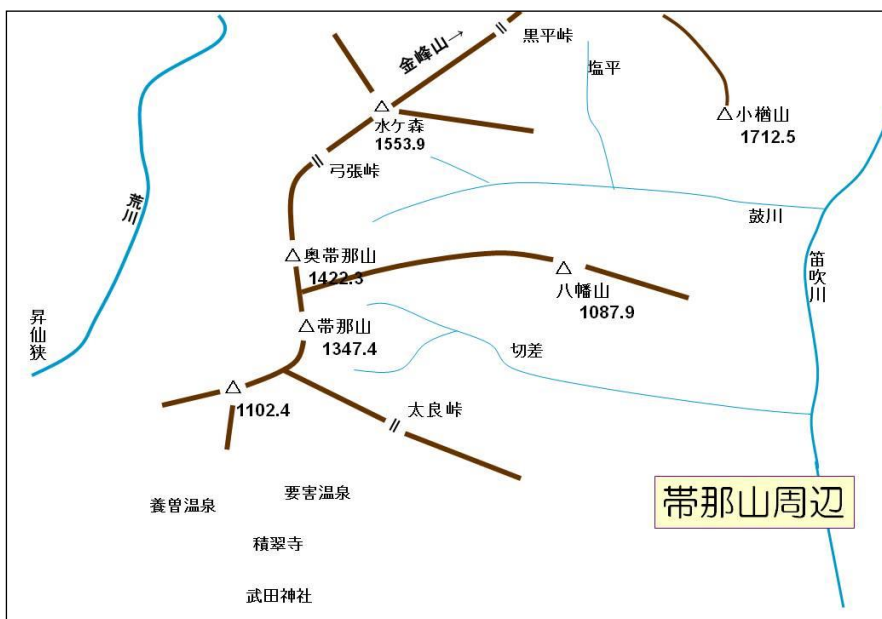


会社で、甲府出身の橘さんに何度か聞き、一度行ってみたいと思った山、それが帯那山。甲府駅から近く南アルプスの眺めが素晴らしいと言う。地図やガイドブックで調べて見たが、あまり情報は得られなかった。甲府市の北側に座し、金峰、国師と連なる奥秩父の主稜線から南へ伸びる尾根の末端にある。偶然見つけた雑誌の切り抜きから、武田神社を経て積翠寺に入り太良ヶ峠（たらがとうげ・別名たらとうげ）から頂上に至るコースを知った。



昭和 39 年 1 月 26 日

中野発0時08分の臨時列車があることがわかったので中野に

移動。乗客は50人足らずで座ることができた。甲府駅で三時間近く仮眠の後、6時25分のバスで積翠寺へ。芦安行のバスは10人ほどお客さんがいるようだが、こちらは私のほかに農家のおじさんが一人だけ。積翠寺6時58分着、7時に出発。要害温泉への道を分け、養曽温泉を通り太良ヶ峠へ。峠が近くなるにつれて甲府盆地の向こう側に南アルプスの白く連なる峰が手に取れるようになってくる。

積翠寺を出てから二時間半ほどでパラボラのある帯那山頂上、1347.4m。高い山が多い甲府周辺では低山と呼ばれるが、南に広がる甲府盆地、西から南にかけて連なる南アルプス北部の峰々。富士山はえくぼに指を突っ込めるほどの近さ。北西にハケ岳連峰、これまた白く逞しい。眺望の点では今までに登ったどの山よりも素晴らしい。(右写真:山頂から南アルプス方面) 帯のように長く延びる稜線からこの山名になったという話を聞いたことがある。帯の垂れるような長さという表現は、金峰山から甲府盆地までの長い緩やかな稜線を表現しているのだろうか。



真北に金峰山、国師岳。これだけの景色が並べば食

事も旨くなる。ゆっくり景色を楽しみ10時50分出発。金峰山に向かうような感じで尾根通しに北上。奥帯那山(1422.4m)、南側の帯那山(1347.4m)と二つの三角点があるピークが並ぶ。奥帯那山を過ぎると緩やかな凹凸を繰り返しながら弓張峠になる。目の前に水ヶ森(1553.1m)がどんと構える。

雪は足首を埋める程度だったが、水ヶ森付近では脛の中央ぐらいの深さになった。水ヶ森は東側を巻いて、黒平峠の手前のコルから東側の谷に入り塩平に下りた。14時55分、バス道路に着くと、富士山は徳利のセーターを着たように首だけを出して盆地を眺め回しているような感じだった。

15時20分のバスに乗り塩山駅まで一時間。帰路も臨時列車で、空いていて往復とも楽な旅になった。

以上

(修正・更新:2023年10月)